〔俗説正誤夜光珠中〕時疫とは傷寒のことゝいふ説

時疫と傷寒は別の病なるを、一病の異名と心得たる人おほし、これは大成論に、傷寒の證固に、天疫流行して、一時に感ずる所の病、老少となく率相似れる者有とあるによりての謬りなり、是すなはち時疫にて、傷寒にはあらず、此別ちは傷寒論の二卷め、傷寒例第三に分明なり、時疫とは俗に疫病といふ時行病のことにて、いつにても時の不正の氣に感じて病むなり、其邪熱の表裏經絡にあづかる所は、大概傷寒に類するものなり、さて又傷寒は冬の中、寒氣に傷られて、其時に病むを、即病の正傷寒といふ、此うちに陰症陽症のわかちあり、又その寒毒肌膚に藏れて、春夏へもちこして病むを、不即病の傷寒といふ、此うちに春病むを温病といひ、夏病むを熱病といふ、これいづれも陽症なり、さて此陽症の傷寒に、六經の傳變表症裏症半表半裏等の證ありて、其變すべて三百九十七法、仲景先生の傷寒論につまびらかなり又李東垣の論に別に勞役の傷寒を出せり、總じて傷寒ほどの大病はなき故に、傷寒雜病として、傷寒に對する時は、一切の病をことゞく雜病と云へり、

〔牛山活套上〕時疫　瘟疫　大頭瘟　蝦蟆瘟、百合病

時疫瘟疫ノ病ハ、疫癘ノ類ニシテ、一般ニ流行スル熱病ナリ、多ハ温熱ノ邪ニ中リ、或ハ山嵐ノ瘴氣ニ感ズル也○中略

大頭瘟ノ症ハ、頭腫テ如斗、或ハ耳ノ根腫痛シ、頭ニ瓶ナドヲ被タルガ如ク、上カブキニ成テ大熱ヲ發スル也、其脈多ハ浮大ニシテ數ナリ、荆防敗毒散ニ、黄芩黄連牛房子ヲ加テ用テ發シ、或ハ牛房芩連湯ヲ用、共ニ神効アリ、

蝦蟆瘟ノ症ハ、兩ノ腮ヨリ耳ノ根ニカケテ、頰マデ腫テ、蝦蟆ノ狀ノ如ナリテ大熱發ス、今時ノ和俗コレヲ江戸挾箱ト云、治法多ハ大頭瘟ニ同ジ、荆防敗毒散ニ、牛房子黄連黄芩ヲ加テ用、又ハ牛房芩連湯モ宜シ、或ハ老人、或ハ血虚ノ人、或ハ冬月嚴寒ノ時、血澀テ熱發シ難キ類ハ五積散ニ、牛